



2019年8月8日

各 位

本社所在地 東京都新宿区北新宿二丁目 21 番 1 号  
会 社 名 RIZAP グループ株式会社  
代 表 者 代表取締役社長 瀬 戸 健  
コード番号 2928 札幌証券取引所アンビシャス  
問 合 せ 先 執行役員 経営企画本部長 鎌 谷 賢 之  
電 話 番 号 03-5337-1337  
U R L <https://www.rizapgroup.com/>

### 株式会社アイデアインターナショナルの業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社子会社である株式会社アイデアインターナショナルは、本日、「業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ」を開示いたしましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

以 上



2019年8月8日

各 位

会 社 名 株式会社アイデアインターナショナル  
 代 表 者 代表取締役社長 森 正人  
 (コード番号 3140 JASDAQ)  
 問 合 せ 先 取締役経営情報部長 松原 元成  
 (電話番号 03-5446-9505)

## 業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2018年8月10日付「平成30年6月期 決算短信[日本基準] (連結)」にて公表いたしました2019年6月期の業績予想と、本日発表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

## 記

## 1. 2019年6月期 連結業績予想値と実績値との差異 (2018年7月1日～2019年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 14,000	百万円 620	百万円 400	百万円 250	円 銭 17.69
今回発表実績 (B)	15,155	629	444	168	11.77
増減額 (B-A)	1,155	9	44	△81	
増減率 (%)	8.3	1.5	11	△32.5	
(ご参考) 前期実績 (2018年6月期)	9,011	419	293	296	20.98

## 差異の理由

売上高につきましては、キッチン家電を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」が前期比142%と引き続き好調に推移したことで、全社におきましても前期比168%となりました。ブルーノの主力商品のコンパクトホットプレートが、セラミックコート鍋やノブなどの機能性・デザイン性に優れたオプション商品や、人気キャラクター「ムーミン」モデルなどの販売好調により売上が牽引しました。また、当期新発売したホットサンドメーカー、流しそうめん器、マルチスティックブレンダーなどのその他のキッチン家電や、ポータブルファンなどのインテリア家電も、WEBや雑誌の宣伝効果もあって、売上に貢献しました。さらに海外においても、中国、香港、台湾などでブルーノ商品の売上が拡大し、特に中国では同国最大のEコマースサイト「T-MALL」が主催するイベントで「売上に貢献した新進ブランド商品」として表彰されるなど、売上・人気とともにブランドの認知度が高まりました。

トラベル商品ブランド「ミレスト」につきましては、主力のバッグ商品において限定色や新型の投入により販売を拡大、引き続き好調を維持しております。またアメリカの老舗織物メーカー「PENDLETON」との期間限定キャンペーンも好評で、認知度の高いブランドとのコラボレーションによる新たな顧客層へのアプローチが成功しました。結果、「ミレスト」の売上は前期比109%と拡大しました。

また、子会社の株式会社シカタもバッグ商品のOEM販売を中心に売上を伸ばしたことにより、全社の売上高は前回予想に比べ1,155百万円上回ることとなりました。

営業利益につきましては、利益率の高い自社商品ブランドの売上が拡大したこと、及び株式会社シカタの利益が加わったことにより、前回予想に比べ9百万円上回ることとなりました。

経常利益につきましては、主に株主関連費用128百万円計上したものの、前回予想に比べ44百万円上回ることとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、一部店舗および埼玉化粧品工場の減損損失71百万円、老朽化した埼玉化粧品工場閉鎖の減損損失12百万円等を計上したことにより、前回予想に比べ81百万円下回ることとなりました。

## 2. 2019年6月期 個別実績値と前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 8,306	百万円 413	百万円 280	百万円 306	円 銭 21.69
今回発表実績 (B)	10,062	325	146	7	0.51
増減額 (B - A)	1,756	△88	△134	△299	
増減率 (%)	21.1	△21.2	△47.7	△97.6	

### 差異の理由

売上高につきましては、キッチン家電を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」が前期比142%と、引き続き好調に推移したことで、全社におきましても前期比168%となりました。ブルーノの主力商品のコンパクトホットプレートが、セラミックコート鍋やノブなどの機能性・デザイン性に優れたオプション商品や、人気キャラクター「ムーミン」モデルなどの販売好調により売上を牽引しました。また、当期新発売したホットサンドメーカー、流しそうめん器、マルチスティックブレンダーなどのその他のキッチン家電や、ポータブルファンなどのインテリア家電も、WEBや雑誌の宣伝効果もあって、売上に貢献しました。さらに海外においても、中国、香港、台湾などでブルーノ商品の売上が拡大し、ブランドの認知度が高まりました。

トラベル商品ブランド「ミレスト」につきましては、主力のバッグ商品において限定色や新型の投入により販売を拡大、引き続き好調を維持しております。またアメリカの老舗織物メーカー「PENDLETON」との期間限定キャンペーンも好評で、認知度の高いブランドとのコラボレーションによる新たな顧客層へのアプローチが成功しました。結果、「ミレスト」の売上は前期比109%と拡大いたしました。以上のことにより、前期実績に比べ1,756百万円上回ることとなりました。

営業利益につきましては、リレント化粧品事業において、OEMの受注が大幅に減少し、事業損益が前期の黒字から一転赤字になったこと等により、前期実績に比べ88百万円下回ることとなりました。

経常利益につきましては、株主関連費用が前期に比べて45百万円増加したことにより、前期実績に比べ134百万円下回ることとなりました。

当期純利益につきましては、一部店舗および埼玉化粧品工場の減損損失71百万円、埼玉化粧品工場閉鎖の減損損失12百万円等を計上したことにより、前期実績に比べ299百万円下回ることとなりました。

以上